

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 物忘れ外来受診者における主観的ウェルビーイングに関する検討

[研究責任者] 岡崎市民病院 所属：医局 脳神経内科 榎田 道人

[研究の背景]

近年におけるメンタルヘルスの分野では否定的側面とともに肯定的側面からも精神的な健康をとらえる重要性が指摘されています。認知症に関しても抑うつや意欲低下といった否定的な心理側面が認知症のリスク因子となる一方で、ウェルビーイング※といった肯定的側面が予防因子となる可能性が報告されています。しかし認知症発症とともに主観的な心理側面であるウェルビーイングがどのように変化するかを検討した報告は多くはありません。認知機能低下が疑われる方においてウェルビーイングがどのように変化するかを検討し、認知症の予防因子としての役割をより適切に理解するとともに、認知機能が低下した状態においてウェルビーイングを保つための情報源となることが期待されます。

※Well-being（ウェルビーイング）とは、Well（よい）と Being（状態）が組み合わさった言葉で、「よく在る」「よく居る」状態、心身ともに満たされた状態を表す概念です。

[研究の目的]

認知機能低下が疑われる方においてウェルビーイングがどのように変化するかを検討することで、認知症の予防因子としての役割をより適切に理解するとともに、認知機能が低下した状態においてウェルビーイングを保つための情報源となることが期待されます。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

認知症/軽度認知機能障害/自覚的な認知機能低下が疑われた患者さんで、西暦 2023 年 9 月 1 日から西暦 2024 年 8 月 31 日の間にも物忘れ外来を受診された方

●研究期間：臨床研究審査委員会承認日から西暦 2024 年 11 月 30 日

●利用する検体、カルテ情報

検体：通常の診療で使用した検査結果を使用し、研究のためだけの検査は行いません。

カルテ情報：

- ① 患者背景（年齢、性別、教育歴、生活環境、介護状況）

- ② 認知症重症度評価
- ③ 身体機能評価
- ④ 画像検査
- ⑤ ウェルビーイング評価

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者及び検体や情報の提供先である榊田道人が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

岡崎市民病院 所属：医局 脳神経内科 榊田 道人

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913